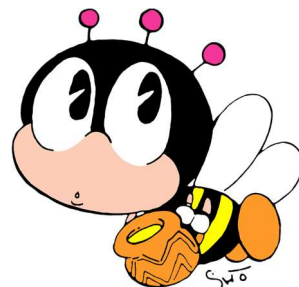




# 生涯学習 マナビイ通信



大人も子どももドキドキワクワクのマジック・ショー！ 何とそれを各所で開催している団体があります。その名も「マジックサークルふしぎ」。今回はその代表・タティー氏にインタビューしました。

## ♥ ♣ こんな活動をしています ～2つの柱～ ◆ ♠

Q：「マジックサークルふしぎ」は主にどのような活動をしているのですか？

A：本物のマジックに目の前で触れてもらい、その面白さ、不思議さを多くの方々に実際に体感していただく活動をしています。

そもそも、マジックを目の前で見る機会というのはまずありません。普通マジックというと、皆さんテレビでご覧になったようなものを連想しますよね。いろんなマジックがありますが、信じられないような不思議なことが起こるといったイメージは共通してあります。実際に、そういうマジックを、エンタメとして気軽に見ていただく機会をできる限り多く作っていき、というのが私たちの活動の基本です。

Q：具体的な活動は何をしているのですか？

A：2つの柱があります。

1つは、「マジック・タイム」という自主ライブ活動です。2017年から定期的に年4回開催し、今年2023年5月時点で計15回開催をしました。定員15名程度までの小さなマジックショーですが、毎回とても和やかな雰囲気、お客様が一体となって不思議に包まれます。マジックのパワーを体感できる、日常から離れた独特のひとときになっていますね。

もう1つが、ご依頼に応じてマジックショーを行う活動です。児童館や福祉施設などからのお声かけが多いですね。ボランティアでの活動ですが、依頼者のご希望や会の趣旨をじっくりお伺いし、それに沿うように、最適なものをご提案しています。

Q：コロナ禍での3年間の活動はどうでしたか？

A：2020年2月に「マジック・タイム」を開催してから、イベント開催は自粛になりましたし、ご依頼もほぼなくなりましたね。この間、サークルでは、メンバーがおのおのの研究成果を定期的にシェアする活動を細々と(?)続けていました。結果的には今に繋がる有意義な時間だったと思っています。

2022年になって状況が良くなってきました。感染症対策を講じつつ、マジック・タイムを年間3回開催することができましたし、また児童館などの出演のお話もいただくようになりました。名取市では増田児童センターで7月に演技する機会がありましたね。



【タティーさん】



【マジック・タイム開催後、にっぺさん(右)と】

## ♥ ♣ サークル結成！～新たな可能性～ ◆ ♠

Q：そんなタティーさんが、「マジックサークルふしぎ」を立ち上げたのは、どんな経緯からですか？

A：先ほども話した「マジック・タイム」の開催を始める前は、ご依頼をいただいてマジックをするのが活動の中心でした。これを個人でやることにさほど苦労はせずにはしていました。ところが、自分の思うようなマジックをお見せするための機会として「マジック・タイム」を開催してみて、小さなショーでもイベントを運営するのがいかに大変かということに気づきました。5回目までは1人でやっていたのですが、「仲間が欲しいな」という思いが回を重ねるたびに募ってきました。

そんなときに会ったのがにっぺ氏です。彼と「自分の演技を磨き、多くの人にマジックの魅力を伝えたい」という思いが一致して、サークルを結成しました。「マジック・タイム」の共演者として回を重ねています。各々が持ち味を生かして精進することで、マジックショーの幅が広がりました。

## ♥♣教えて！マジックの魅力◆♠

Q：マジックの魅力とは何ですか？

A：私は、マジックが好きですから、純粋に「不思議」な現象それ自体に惹きつけられてしまいます。ただし、誰でも私のような感覚というわけではないんですね。不思議とは、つじつまの合わないことですから。常識では起こらないことが目の前で起こる。これは、見たら惹きつけられるというよりは、むしろ戸惑いの感情をもたらします。

マジシャンの役割は、この戸惑うような「不思議」を、きちんとお客様が受け入れてくれるように、味付けしてお届けするという。演出やお客様の気持ち、といった様々な要素をトータルに考慮してプレゼンするのは楽しいもので、マジックの1つの魅力ですね。

Q：マジックショーをするときに、心がけていることは何ですか？

A：演じる側でなくて「見る側」でいえば、特に子どもにとってマジックはまさに特別な体験です。子どもは絵本やTVなどで魔法とたくさんなじんでいます。大人以上に身近なものとして魔法というものを捉えているのです。そんな身近に感じている不思議な魔法が、本当に目の前で繰り広げられている。これは子どもにとってまさに特別な体験ですね。

マジックショーで心がけているのが、お客様が特別なものとして「体感」したことが、その方の「心に残る」ように後押しすることです。ショーの最後で「振り返り」を入れたり、その驚きや感動を周りの方にもお伝えするように促したり、といったちょっとした工夫をしています。心に残ることこそ「学び」と言えますから、これはとても大切だと思いますね。



【増田児童センターで】

## ♥♣マジックは生涯学習◆♠

Q：実際のマジックショーは、どのような構成になっているのですか？

A：ショーの種類によって演目は異なりますが、構成の共通ポイントはあります。

最初は手早くお客様に「おっ」と思わせる「オープニングアクト」です。続いてお客様との信頼関係を築くための自己紹介等をしたあと、「中ネタ」に進みます。ここではお客様からお手伝いをいただいたり、やりとりをしたりするマジックをいくつか入れていきます。最後は「トリネタ」で、派手な、あるいは現象の大きなマジックで締めくくります。

Q：マジックショーをやっていて、自分自身が変化したということはあるですか？

A：変身マジックのことじゃないですよ（笑）？ 冗談はさておき、ステージに立つ度、反省点や気づきが出てきます。長く携わっていてもマジックは難しいですね。自分の成長のためには「自分を客観視すること」が重要だと思ようになりました。

新たなレパトリーへの挑戦も含めて、マジックを自分の芸として完成させたいという気持ちは常にあります。エンドレスですが、ずっと模索し続けられる。それがマジックという芸能だと思います。



【宝くじでマジックを披露】

## ◆市民の皆様へのメッセージ◆

マジックはやればやるほどその面白さに惹かれていきます。私たちはその魅力をお伝える活動を継続して行っていますので、ぜひお気軽にお声がけください。

マジック・タイムにもぜひ一度足を運んでみてください。([twitter.com/fushigi\\_mc](https://twitter.com/fushigi_mc))

そして、こうした演芸に少しでも興味を持っていただいて仲間として活動したいという方も大歓迎です。一緒にマジックを楽しみましょう！



マジックサークルふしぎ・タティー先生の講座申込を希望する人は、市HPに掲載の申込書を提出、または生涯学習課に電話・メールでお問い合わせください。

〒981-1224 名取市増田柳田 570-2 仙台法務局名取出張所2階 生涯学習課

☎022-724-7173 Mail: [syogaku@city.natori.miyagi.jp](mailto:syogaku@city.natori.miyagi.jp)



[オンライン申込フォーム](#)